



## 「遠賀スタイル」の授業を通じた生徒の学ぶ意欲向上と

### 課題解決能力、自己肯定感の涵養

遠賀高等学校は、明治44年4月1日に遠賀農学校として創立され107年目を迎える歴史と伝統のある高等学校です。「自立・勤勉・創造」の校訓のもと、地域を愛し、地域に愛され、地域に信頼される校風づくりに努め、地域に貢献できる責任感ある人材の育成を目指して、日々の教育活動を行っています。

#### 1 授業改善の目指す方向性

学校教育目標 < 地域に貢献できる責任感ある人材の育成 >

校訓「自立・勤勉・創造」のもと、地域を愛し、地域に愛され、地域に信頼される校風づくりに努める。志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心もち、地域に貢献できる責任感ある人材の育成を目指す。

学校教育目標達成のためには、①社会人として必要な「基礎学力」②社会人として必要な「規範意識、マナー、モラル」③望ましい「勤労観・職業観」④自他共に認め、共生できる「コミュニケーション能力」の育成が重要であり、日常の学校生活や諸活動において、体験的な活動を重視し、鍛えてほめて生徒の可能性を伸ばす教育活動を展開し、地域に開かれた学校づくりを進めることで、これらの資質・能力の育成を目指しています。

#### 2 授業改善の推進体制と生徒の変容

##### (1) 「遠賀スタイル」の推進

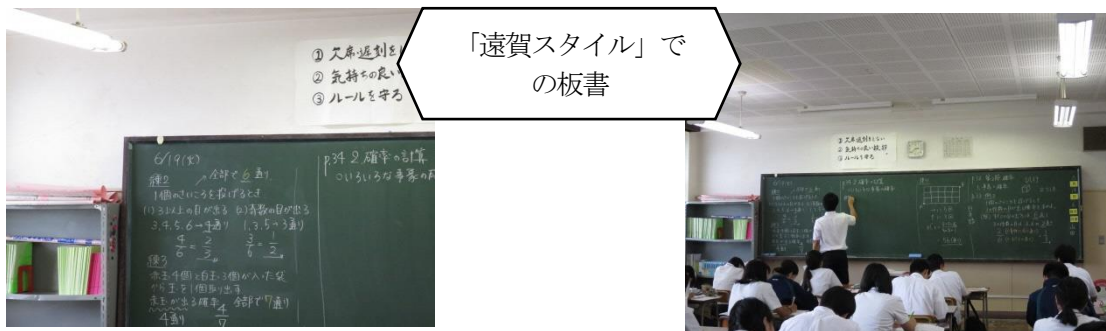
生徒にとってわかりやすい授業を展開するために、授業の進め方について具体的な共通項目を設け、全職員で授業における基本姿勢として「シンプル・クリア・ビジュアル・シェア」(表1)の授業スタイルを定着させています。また、統一した授業展開(表2)を行うことで、座学において、集中力や興味・関心が持てる授業形式の基本形態を定め、生徒の学習が主体的・対話的で深い学びとなるよう取り組んでいます。

シンプル・・・簡潔であり、複雑な表現は用いない授業  
クリア・・・明快であり、目的までが透き通っている授業  
ビジュアル・・・視覚的、映像的、かつ体験的な授業  
シェア・・・知識を共有し、ともに学び合う姿が見える授業

表1(授業における基本姿勢)

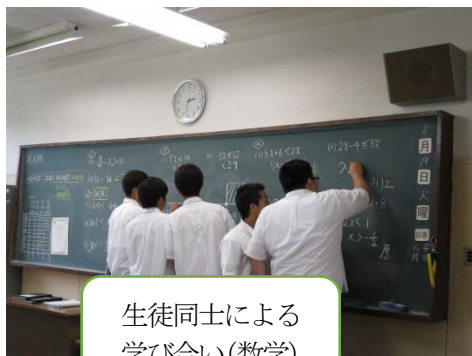
ア 授業の始まりに、本時の「目標(めあて)」を明記する。  
イ 5分程度の授業の目標・概略の説明  
ウ 5分程度の前時の学び直し  
エ 15分程度の講義  
オ 10分程度の演習・作業・グループ学習、討議等  
カ 10分程度の生徒との発問・応答・発表等  
キ 5分程度のまとめと時間の予告等

表2(統一した授業展開:ア・イ・ウ・キは共通して確保、エ・オ・カは柔軟に対応)



- ① 尺取遅刻を
- ② 気持のよい
- ③ ルールを守る

「遠賀スタイル」での板書



生徒同士による  
学び合い(数学)



課題解決に向けた主体的な学び  
(左：自校の梅を材料にした加工品開発)  
右：ウエディングドレスの制作

(2) 各教科の取組 (一部を記載) → 生徒の変容

(数学) 数学的な考え方や解答方法を生徒の板書解答を通じて学ばせ、その数学的な方法を理解させる。

(専門/家庭) グループ活動やグループごとの発表を通して、級友とのコミュニケーションを充実させ、思考力、判断力、表現力を高める。

(専門/商業) ロールプレイングを通して、良好な人間関係を構築することの意義や必要性を学び、ビジネスに対する心構えや考え方を養う。



全職員が共通認識をもち、教科だけでなく、総合的な学習の時間、学校行事など全ての教育活動に取り組むことで、生徒たちは学年を追うごとにコミュニケーション能力の向上が見られるようになってきています。また、授業に積極的に参加する様子もうかがえるようになってきています。

**3 授業改善に関する校内での研修内容と方法**

(1) 生徒への授業アンケートと結果分析 (1, 2学期)

「遠賀スタイル」に基づく授業改善が進められているかを生徒への授業アンケートによって教員が振り返る機会を設けています。教師の授業についての評価だけでなく、生徒一人一人が自身の授業参加状況を振り返ることができるアンケートにしています。

(2) 授業公開週間 (10月) と外部指導助言者を招聘した授業研究会

授業参観シートには、重点目標 (興味・関心を高める授業、わかる授業、段階に応じた目標設定) に照らした授業となっているか、授業中の生徒の状況、「ビジュアル」の実践ができているかを記入するようになっており、授業参観における職員相互の目線合わせができるようにしています。

(3) 新規採用教員、先任教員による研究授業、示範授業と研究協議

(1)~(3)の取組を通じて、全職員で組織的に「遠賀スタイル」を中心とした授業改善を進めています。

**4 今後の方向性**

現時点では、授業の取組が学力向上に十分に直結していない面もあり、基礎学力の向上をさらに図ることが喫緊の課題となっています。学習習慣の定着が不十分であることに加え、「学習の方法がわからない」という生徒も少なくない状況があるため、「遠賀スタイル」の新たな試みとして、家庭学習用の課題を各教科で検討・作成することを目指しています。授業における生徒の主体的な活動により、学習意欲を高め、自主的な学習習慣を身に付けさせるための授業改善に全職員で取り組んでいきます。